

# News Letter

自治医科大学地域医療オープンラボ

Vol.2 July, 2006

文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

## 社会人大学院生を迎えて

脳神経外科学 教授 渡辺 英寿

平成18年度から創設された社会人大学院制度を活用し、われわれの教室では3人の大学院生を社会人枠として採用しました。この制度は、現在地域医療に従事しているわが校の卒業生および教室員に対して博士課程の大学院教育を行おうという、自治医大にふさわしい企画です。近年の新臨床研修制度の影響もあり、医師不足がみの脳神経外科医は臨床上の業務が非常に多く、臨床の傍ら落ち着いて研究することが極めて困難な状況です。このような側面からも今回の社会人大学院制度は時宜を得た企画であると考え、早速利用させていただいた次第です。

入学した3人のうち2人は、勤務先が自治医大から1時間以内と比較的近く、夕方から大学に来て研究を行なう事も可能です。1人は山形県におり、義務年限期間中の僻地勤務で、大学までの通学は3時間以上かかります。1週間に一回以上の来校は事実上困難ですので、近隣に学外講師を設定していただきました。さらに、研究テーマにも一工夫を行ないましたので簡単にご紹介します。

まず、研究の大部分がコンピュータ上で可能なものとし、ネット上でも研究作業が進められることがキープポイントと考えました。具体的には、私の永年の懸案である外科解剖の体験をコンピュータ上で可能とするシステムの構築で“Digital cadaver project”と命名しました。脳の手術はせまい頭蓋内での見通しが悪いので、正確な3次元的な解剖の知識が必要とされます。このため、脳神経外科医にとってはご遺体を使用する解剖実習がとても重要なトレーニングと認識されています。その実現のために、詳細な3次元デジタルデータを構築し、それをコンピュータ上でさながら dissection するように削って行くアプリケーションを開発する予定です。成功すれば、ひろく外科分野での解剖のトレーニングに資するところが大きいものと期待しています。

新しく入学した3人の先生方のたゆみない努力により、この新しい制度が十分な成果をあげるよう、応援してゆきたいと考えます。

## 社会人大学院入学によせて

地域医療学系専攻1年 植田 香

自治医科大学医学部23期卒業で現在、医師になって7年目になります。もともと内科に進もうと前期研修で内科ローテートをしていましたが、その間にたまたま回った脳神経外科の魅力に惹かれ脳神経外科に転向しました。今年度より我が母校に社会人大学院が開設されることを知り、渡辺教授をはじめとした脳神経外科の皆様、山形で応援して下さる皆様方の陰で入学することができ、この春から週1回の山形から通学を始めました。

現在は人口4,300人の山形北部の豪雪地帯にある診療所に勤務しています。慢性疾患のご高齢の方が大部分を占め内科的疾患が主ですが、脳卒中の患者さんも多く私の未熟な脳神経外科の知識でも喜ばれています。患者さんの信頼が厚く、地域に根ざした家庭医療を実践した大変やりがいのある職場です。しかし脳外科を志した身としては現代医療から取り残されているような不安感と、もっと学びたいという焦りがでてくることもしばしばあります。やる気があっても教育施設や機会が限られていますし、僻地勤務をしながらでは様々な面で限界があり専門性を追求するには困難さを感じていました。自治医大卒業生は他大学と違い興味のある分野があっても、義務年限中は県の方針によってはなかなか勉強が困難であり、途中であきらめたり、妥協せざるを得ない人も多いのではないのでしょうか。

そのような悩みを持っているときに、自治医大に社会人大学院が開設されることを知りました。山形県では他県での研修は認められていないため大学のような学術機関での勉強は半ば諦めていましたが、この制度のお陰で今までの臨床とはひと味違った勉強ができるようになりました。最新の知識が得られますし僻地勤務しながら学位を取ることが可能となり、義務年限後の将来像が描きやすくなりました。この機会を通じて様々な可能性が広がったことを実感しつつ、渡辺教授の御指導のもと週1回新鮮な思いで通学しています。

これまで臨床一辺倒の医療と異なり、臨床から離れた視点でじっくり疾患に向き合い自分なりに納得しながら勉強する機会を持てたことは、私自身の今後の大きな財産になると思います。このような可能性を広げてくださったみなさま方に感謝し、期待に応えられるよう4年間頑張っていきたいと思います。そして幅の広い経験を身につけ質の高い医療を提供し社会還元できるような医師になりたいと思います。



## 自治医科大学大学院学外講師について

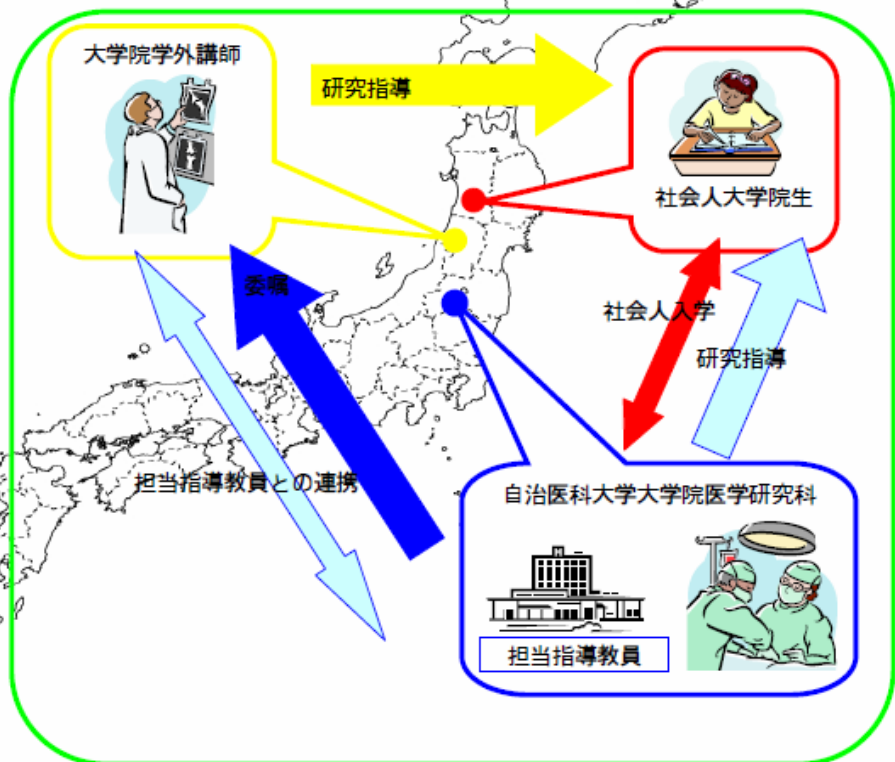
平成18年度より、地域医療に従事する医師などの社会人が、地域医療の現場を離れることなく、地域医療の現場で提起された課題に対する研究を行い、その研究成果を地域医療に還元するとともに、地域医療の質の向上に資することを目的として大学院医学研究科博士課程に社会人特別選抜試験による入学枠が設けられました。

これに対応し、担当指導教員と協力し、地域医療の現地教育の場において、主に大学院学生の研究指導を担当する

「自治医科大学大学院学外講師」が設けられました。

(平成18年

9月1日 施行) 自治医科大学大学院学外講師の先生方には、地域医療に関する調査研究への参画や教育研究方法の工夫及び改善に対する助言・調査にも参加いただき、学内外から大学院の活性化を目指します。



## 平成19年度大学院医学研究科入学試験について

平成19年度の大学院医学研究科入学試験は次のとおり実施いたします。募集要項等出願書類は、学事課(記念棟6階)に用意しております。学事課へ電話又は電子メール (graduate@jichi.ac.jp) にて請求ください。無料でお送りいたします。

なお、本年度の入学試験より出願前にTOEICの受験が必要になります。TOEICは全国各地で受験することができます。TOEICの試験日程等については、ホームページ (<http://www.toeic.or.jp/>) でご確認ください。

	第1回 入学試験	第2回 入学試験
募集人員25名 (社会人特別選抜試験若干名を含む。)	出願期間 H18.07.10 (月) ~07.28 (金)	H19.01.09 (火) ~01.26 (金)
	試験日 H18.08.28 (月)	H19.02.26 (月)
	合格者発表(予定) H18.09.28 (木)	H19.03.22 (木)

【試験科目】 専門科目試験、口頭試問及び面接

## 地域医療オープン・ラボ ホームページを開設

平成18年7月19日に地域医療オープン・ラボのホームページを開設いたしました。今後、コンテンツの充実を図って参りますので、ご意見ご感想をメールにてお寄せください。リンクはフリーですが、リンクの設定箇所については、ホームページのトップページ「<http://www.jichi.ac.jp/openlab/index.html>」のみとさせていただきます。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/index.html>

自治医科大学大学院医学研究科

### 地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
 TEL 0285-58-7044 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp  
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>